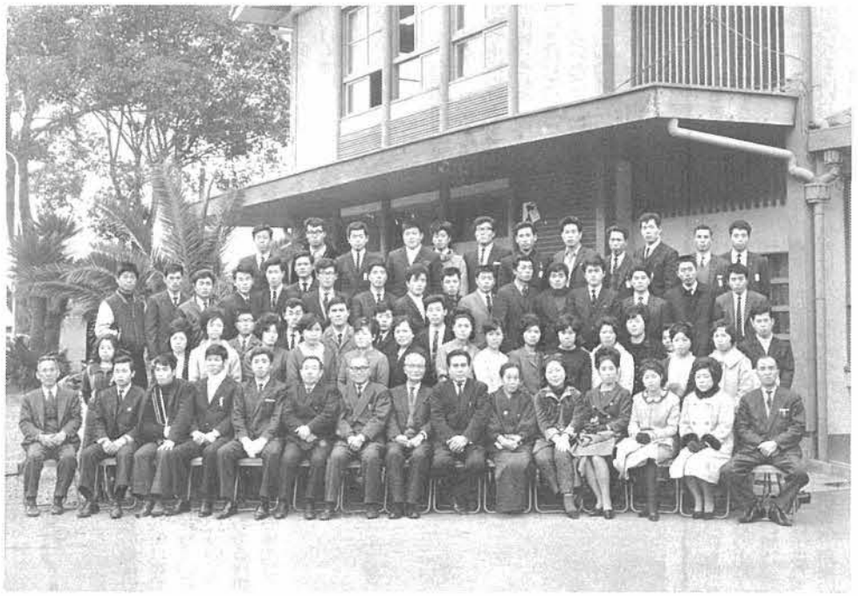

１人１人がツンとすまして、われ１人のような顔しているが、小学校から中学校まで永い間苦楽を共にした親しい心のつながりをもつ仲間である。久し振りにふれ合い通じ合って、又それぞれの仕事場に散っていった。灯に誓ったあの夜の強い大きい希望と、大人の現実に対するおびえとを胸に秘めて。

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話（津奈木）24番
編集人　岡松　壮
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）代表3118番

施政方針の一端

町長　齋藤亀齢

ゆたかで住みよい郷土の建設、これが津奈木町施政の根本理念である。

(一)ゆたかな郷土をつくるには、なんといっても自然からうみだすしごと、第一次産業（農林漁業）の発展がもっとものぞましい。とくに津奈木は、農業を主業とするものが大部分をしめているので、農業の開発を第一にかんがえねばならぬ。そのため、(1)農業構造改善事業の整備を完全ならしむることをかんがえねばならぬ。面積三三、一ヘクタール、農道四千五百メートル、総計費八四九五万円でみごとな蜜柑園ができた。地区外でも相当開墾されているので、約二百ヘクタールにおよぶ広大な果樹園になってきたが、目標は三百町である。第二次農構事業の一部として、津奈木水俣地区に、マンモス選果場をもうけるよていになっている。

(2)津奈木干拓整備　総面積四五十年たらずにしてすでに圃場整備ヘクタール総工費三億二千万円、工事にまでおよんでいる。その進歩ぶりは実にりっぱなものでご同慶にたえない。

(3)其の他農道の開発も総延長約六万キロにたっして、その利用度も高い。今後補主建従の意味をふくめて維持管理につとめたい。

(4)漁業―海岸線のながさは郡内第一で、漁獲高も多い。よって漁協と連携してその発展をはかっている。しかし漁量も減る一方なので、「とる漁業からそだつる漁業へ」を目標として、真珠貝養殖、たご養殖、漁礁投入等、適切な方法をすすめている。

(二)住みよい郷土をつくること

(1)物的環境が整備されねば住みよい郷土とはいえない。そこでまず交通網完備のため、津奈木循環道路の開通、海岸道路の修理舗装等を進めるとともに町道をととのえたい。観光対策としては福浦合串線の開通によって海水浴場をもうけまた(1)津奈木湯児線を通じて産業観光路線とする。なお千代塚を整備し、慰霊塔を建立して、一大聖地たらしめ三号線そいの名所としていかしたい。(2)人的問題―制度の運用は人にありといってあるように、人の和があってこそはじめて万事がなりたつのである。その根本をなす学校教育は、近時益々成績が上り、進学就職自営ともに優秀である。人口減少問題は真珠作業、工場誘置、産業開発等によって解決できると思う。

昭和42年度一般会計予算

歳　入

款	項	金額（万円）
1.町税		1624.4000
	1町民税	335.1
	2固定資産税	737.6
	3軽自動車税	68.4
	4たばこ消費税	336.4
	5電気ガス税	115.4
	6鉱産税	1
	7木材引取税	31.2
2.地方交付税		5100.0
	1地方交付税	5100.0
3.分担金及び負担金		1284.6
	1分担金	184.0
	2負担金	1100.6
4.使用料及び手数料		125.3
	1使用料	79.9
	2手数料	45.4
5.国庫支出金		1220.3
	1国庫負担金	154.8
	2国庫補助金	1007.5
	3委託金	58.0
6.県支出金		1784.0
	1県負担金	26.3
	2県補助金	1705.6
	3委託金	52.1
7.財産収入		211.1
	1財産運用収入	10.8
	2財産売払収入	200.3
8.寄附金		60.2
	1寄附金	60.2
9.繰入金		55.6
	1特別会計繰入金	.3
	2基金繰入金	54.3
10繰越金		299.9
	1繰越金	292.9
11諸収入		138.3
	1延滞金加算及手数料	1.2
	2町預金利子	25.0
	3雑入	112.1
12町債		620.0
	1町債	620.0
歳出合計		1.2915.7

歳　出

款	項	金額（万円）
1議会費		464.8
	1議会費	464.8
2.総務費		2175.8
	1総務管理費	1196.2
	2徴税費	495.6
	3戸籍住民登録費	243.6
	4選挙費	144.7
	5統計調査費	88.7
	6監査委員費	7.6
3.民生費		740.1
	1社会福祉費	397.2
	2児童福祉費	341.1
	3災害救助費	1.8
4.衛生費		283.9
	1保健衛生費	219.8
	2清掃費	43.0
	3上水道費	18.0
	4下水道費	3.1
5.農林水産業費		5901.7
	1農業費	3634.9
	2林業費	.6
	3水産業費	.2
6.商工費		11.0
	1商工費	11.0
7.土木費		891.3
	1道路橋りょう費	866.9
	2河川費	16.5
	3住宅費	7.9
8.消防費		250.3
	1消防費	250.3
9.教育費		1341.6
	1教育総務費	165.0
	2小学校費	919.6
	3中学校費	396.1
	4社会教育費	203.0
	5保健体育費	56.9
10災害復旧費		103.6
	1農林水産施設災害復旧費	101.6
	2公共土木施設災害復旧費	2.0
11公債費		302.0
	1公債費	302.0
12諸支出金		6
	1普通財産取得費	6
13予備費		50.0
	1予備費	50.0
歳出合計		1.2915.7

六車先生の孝心

交通信号機へ

桜戸三差路に、交通信号機が設置中です。工費約五十万円のうち津奈木町の負担金は三十万円ですが、これを六車孝吉先生が「村長在職中に死亡した父、茂一郎の三十三回忌と、津奈木町から一つでも交通事故が無くなるように！」との願いで、負担金の金額三十万円を寄附されました。

この信号機が建てられたことによって、同所を通る歩行者は安心して横断歩道が渡れ、運転者もまた正しく交通ルールが守れることを喜ぶ事でしょう。

交通事故を起さぬようにすることが今日の緊急な問題である。
その意味でこの信号機は有難い

六車先生のこの善意を無にせず本町から交通事故を絶滅するよう更にみんなで心掛けたいものです

津奈木の歴史

千々岩頼母

千代塚にはこれまで書いた碑の外に、一番小さくて又一番古い碑がある。高さ一メートル位で碑面一杯苔がはえているので、これを「孝女の塚は苔むしぬ」と歌ったのであろう。碑の上部に「千代塚」と横書に美しい字でほってある。その下の方の碑面には、書き出しに「津奈木郷」云々とほってあるが、古くなって苔のためなかなか文字が読めない、拓本にとったり、いろいろの人にも読んで貰ったがどうもわからない。先の方には数首の和歌とその作者名がほってある。徳富という文字から推測すると、千代の孝行をたたえた和歌で何人かの作らしい。

とにかく、その文面がわからないので、何だか奥歯に物のはさまった様な感じがしてならない。どうにかして読みたいものである。

又別に、向って右側の方に一番新らしい碑がある。これは松本敏先生の文になり、書は水俣高校の間先生の筆であるらしい。

故津奈木村長六車茂一郎翁は、孝女千代の碑の傍に、孝子千々岩常人夫妻の碑、並に節婦平川サメ女の碑を建てられ、更に一段高い所に日露戦役忠魂碑をたてられたが（これは終戦後倒され、その跡に郷土先徳留魂碑が松崎村長の時建てられた）更に蘇峰先生に乞い、重ねて千代女の碑建立の志があったが、その実現を見ずして他界せられたので、その義弟斉藤々吾氏嗣子六車忠雄氏等遺志をつぎ、村民の協力を得て、ことに此の碑が昭和十年に建立されたのである。

此の碑文の末尾に「…… 之等数個の碑石タルヤ孝経百章ノ真諦ハ勿論四書五経ニ絶シ皇国ノ大道民心ノ帰趨ヲ啓示スルモノニアラズシテソヤ」と記されている。

これら千代塚の碑に接し、碑文を味う時、孝女千代女を初め、郷土先徳者に敬虔の情切なるものがあり、実に千代塚こそ郷土文教の源泉の地であろう。

上下門の協同

スラックスで成人式

尾花幸枝

門崎健一君が、上下門のことを発表し、第一位を得た。発表内容の概略を紹介する。

×　×　×

①みかんの増植　②苗木の養成　③共同防除　の三つを営農研究会果樹部の重点としている。

①については、構造改善の実施を生かして、耕地を一ヶ所に集めることにし、万苦の末目的を達した。

②については三万八千本、百八十六万円の収入を得た。

③については、十ha、事業費二百七十三万円で防除施設を完成

つい先日まで子供だった私たちも、早くも今年は二十才になってしまった。そしてそのお祝いとしてみんながそろって、今日五日に成人式を行なってもらったわけだが、後でふりかえってみた場合、とても良い思い出になることであろう。

どこでもやるように振り袖姿でシャナリシャナリとすました顔で式場へ…… と、想像していた私は、津奈木での式のあらましを聞かされた時、とてもうれしかった。スラックス姿でサッソウと …… 本当に若者らしい姿だと思った。夜はキャンドルサービスでお腹を抱えて笑い。朝早くからの共同炊事、一人として手のあいている人はない。自分たちで作ったものはとてもおいしい。係の方々の御指導もあって、（万事スムーズにとはいかないまでも）私たちのものとしての成人式が立派に出来たことを、とても嬉しく思う。

見かけだけ立派で、心のないもてなしよりも、本当に私たちのことを考えて、心から喜び祝って下さった町の方々をとても嬉しく思う。これから私たちは法的に一人の大人として認められるわけだが、この思い出のキャンドルサービスのローソクの灯を将来忘れることはないだろう。

その外、米の増産と省力化と取り組み①直まき②モミスリ共同化③菜種パイロット事業の推進をはかっている。

×　×　×

又生活改善をやっている。料理講習で体力増進をはかり、温水器の共同購入、手芸、生花の趣味も高め、一方ブロイラーの飼育で現金収入をはかり、鶏糞利用で支出を押えている。

×　×　×

今後①甘夏柑の貯蔵対策を研究し②稲の直まき普及③ブロイラーの拡張等を目ざしている。

お千代菩薩

祭り囃子　小鳥の声
酒に酔って、権十登場、鼻唄で

権「酒なくて何のおのれが祭りかな」と訳のわからぬ歌を唄いながら、祖父の杖につまづき倒れる（大げさに）

権「あいた、た、た、誰れだ、こんな所に、俺をひっくり返すような、仕掛けをしておいたのはあ、お前達だな」

千代はらはらして、困る。

権「あいた、あいた（わざと）足と腰の骨が折れてしまったぞ。さあ、医者を連れて来い。それでなければ酒持って来い。なければ薬代を出せ」

千「す、すみません」

権十「すみませんで、すむか。さあ金を出せ …おや（と千代の頭の櫛を見て）いい櫛を持っとるな。よし、そ、それを出せ、それでも、三合や五合の酒になるだろう …」と櫛を取ろうとする。

千「あ、あの、これは亡くなったおっ母さんの形見ですけん、たった一つの」

権「なに！　形見も量もあるか、さあ出せ！」

と櫛を取る。

千代困り果てている。

庄屋上手から登場

庄「これこれ権十、又酔っとるな困った奴じゃ、これこれ止めんかい」

権十きかぬ。

代官、供をつれて登場

庄「これこれ権十、代官様だぞ」

権「なに！代官さまが何だい！」

庄屋が何だい。代官さまなんか！」　とひょいと後を見て代官が立っているのでギクリとして

権「だ代官さまは、え、え…… 代、大、大事なお方でござります、えへ ……この櫛は立派なものですね、へい、千代ちゃん！」

と千代に櫛を渡して、こそこそと逃げるように下手に去る。

祖父と千代平伏する。

庄「代官さま、この者が野中の千代でございます」

代「うむ。千代か、孝は百行の基と申す。この後も孝養をおこたるなよ。その方の行い、殿のお耳にまで達したぞ」

千「えっ!!」

庄「お千代ありがたいことではないか。お前のことが大殿さまのお耳にまで入り、代官さまがわざわざそのことでこの津奈木の村までお越し下されたのじゃ」

千「は、はい …」（涙で声も出ない）

祖父涙にむせんで地にひれ伏す

代「これこれ手をあげい。年寄りのことじゃ、冷えては体にさわるぞ」

祖「へーへいー」

代「体に気をつけて、元気に暮せよ」

芦浦三郎さんという人

芦浦三郎という人は、人のため世のために生れてきたようなものだ黙々とこの道にはげむ。

(一) **交通整理**

写真で見るように、新川橋のたもとで交通整理にあたること六年余、朝七時半から八時十分ごろまで雨の日も寒い日も一日も欠かさない。

なるほど七時から八時までの間は、汽車に急ぐ人、水俣に勤める人の単車、自動車がひっきりなし、その間をぬって児童生徒が徒歩で、自転車で車にぬけようとして、相当の困難。それを三郎さんがあざやかにさばいている。

おどろいたことに、大部分の人が芦浦さんに挨拶して通っている。これはおそらく感謝の気持からだと思う。

(二) **用心棒**

古川橋のかけかえで、平国行の産交バスが三ケ月ばかり、古川を始発としたとき、水俣行の最後便のバスガイドさんを古川から桜戸まで送り届け続けたという。

平国からの最後のバスは八時近い。冬の八時は真暗、車掌さんが桜戸の方に行くのに、真暗では恐ろしいというので。

補導員でもある芦浦さんはガイドさんの用心棒を買って出たわけ。

川に沿って学校に行こうとする小中学生国道の方に急ぐ通勤通学生の織りなす混雑をさばく芦浦さん

数字が示す今年の成人式

一、成人の日は毎年一月十五日ときまっています。ところで今年は一月五日に行ないましたが、そのことについてどう思いますか。

1 一月十五日がよい。一〇%
2 一月五日がよい。八〇%
二、一泊二日について。
1 一泊二日がよい。八〇%
2 当日だけでよい。二〇%
三、キャンドルサービスについて
1 とても楽しかった。五七%
2 期待したほどではない。一四%
3 ゲームについて研究。二九%
四、朝食の共同炊事について
1 とても楽しくよい思出になったと思う。九〇%
2 あんなこと必要なし。一〇%
五、当日の式について
1 ものたりなかった。三七%
2 あれでよい。六二%
六、全般的に今年の成人式をどう思いましたか。
1 よい思い出になった。八五%
2 あまりよくなかった。一五%

別に、宿泊の時寒かったので暖房について考えてもらいたいとの希望が多少ありました。概して高んでもらったので、お世話した私たちも今後一層りっぱなものにしたいと考えています。（浜本繁巳）

津奈木町と青年

青年団長　石田恒義

一月五日今年の成人式が盛大に行われました。前夜から寝起きを共にした私達でしたが、特に感ずることは、当町に住んでいる若者が近年非常に少ないと云うことです。今年も中学校・高校と卒業し就職される訳ですが、また今年も県外就職者が多いかと思うと、何かポッカリ安な津奈木町を想像してしまいます。

津奈木に住んでいる若者の力で、この津奈木の将来を考え、夢、希望の実現に努力することこそ、私達の一つの職務と思ってもけっして過言ではないでしょう。その為に若者としての必要な学習によって本町は、去る一月十五日の知事選挙で、投票率がよかったということで、県の選挙管理委員会長から表彰をうけた。ちなみに、本町投票率は八〇%であった。

青年もよろこび楽しんで朝食の準備をしている。男も女も一様に何かの仕事をして遊んでいない。…1月5日成人式の朝

表彰状

慰霊塔へ

婦人会より寄付

津奈木婦人会では、近く千代塚に建立される慰霊塔に、塵品回収売上代二万円を、寄附することを申し合わせた。

慰霊塔寄付金続々

町内町外の特別寄附金は、各班別に委員が回って御相談して、予定をほぼ終り、お金の方も予定通りにこころよく出していただき、関係者を感激させている。

又一般の寄附も、区長さんの御苦労と部落の方この慰霊塔に対する深い御協力によって、次々に集まっている。

年度内に完成ということで、寄附の方もそのおつもりでお願いします。

てい、私達の郷土「津奈木」の発展に務めなければならないと思います。

私達青年団の組織の中で、又グループの中で、私達の共通の悩みあるいは共通な問題を、自分の体験を通して身をもって修得しようではありませんか、団員諸君、今一歩自分の身の回りをじっくりみつめて下さい。貴方は青年として誇りある毎日でしょうか!!

わずかな青春を意義あるものにするため皆さん方の協力をおねがいします。

世界の願い　交通安全　一秒待つ　心のゆとりが身を守る

アッ危い!!そのスピードが死を招く　とび出すな、車は急に止れない

美しくなるには続けて体操

美しくなりたいのは女の二番目の願いである。

美しくなるためのインスタント美容法がある。服装と化粧がそれである。

しかしそれはほんとうの美しさではなく、又長もちする美しさではない。

地についた美しさは、自分自身の努力によって生み出されねばならない。

それにはどうすればよいか。それは毎日一回は楽しい運動をすればよい。即ち。

1、汗をかく
2、心ぞうをドキドキ、呼吸をはずませる。
3、体を十分に曲げ、伸ばす
4、全身をムチのようにピチピチさせ、ゴムまりのようにポンポンはずませる。
5、大きな声を出して笑ったり歌ったりする。

それも何年も続けなければ効果はない。二代の病気は三代で取り返す。三代の病気は四代で取り返すつもりの根気で。

三月六日に婦人会役員の体力テストをやった。前に曲げる。にぎる力、とび上る力、機敏に動く、肺の大きさをはかるの四種類。

これによって、自分の欠点が大体わかる。自分がせねばならぬ運動もこれから割り出せる。肥満している人は天がい機敏性を欠き、屈伸が不得手、そこで跳ぶ、懸垂などを続ければ、スマートな美人となれるわけ。

体力テスト風景

身近な選挙近まる

県会議員　四月十五日
町会議員　四月二十八日

来る四月二十八日は統一地方選挙の日です。津奈木町では町議会議員の選挙が行われますが、わたくしたち有権者にとってもっとも関心の深い選挙でもあります。

宣報によると県議会議員の選挙は三月三十一日告示、四月十五日投票日、町議会議員の選挙は、四月二十一日告示、四月二十八日投票日となっております。

そこで選挙人名簿登録制度についてお知らせいたします。

永久選挙人名簿に変りましてから、登録の申出制になったことは御承知のとおりです。選挙管理委員会では、毎年三月一日及び九月一日までに登録の申出をされた方の選挙資格を調査して、登録の決定を行いますが、今回は去る三月一日までに登録の申出をされた方で、年令満二〇才に達せられた方と、本町に住み始めて三ケ月以上（三月一日現在）になる方が新しく選挙人名簿に登録され、四月の地方選挙の資格が得られます。三月の登録時期に登録されなかった方は、九月一日に登録の対象者となります。尚、転出転入等で住所を移す場合は、必ず選挙管理委員会へ異動に関する文書を出して、手続きされます様お願いいたします。

選挙人名簿の縦覧は、三月十一日から十日間役場において行いますので関係者は遠慮なくおいで下さい。

最後に町内有権者の深い御協力によりまして、前回行われた知事選挙及び衆議院議員選挙では一人の違反者もなく、然も八〇%に上る投票率を上げ、県下の優良町村として表彰されました。ここに厚く御礼申し上げます。共に、来るべき町会議員の選挙も、前回に増してよろしく御協力のほど重ねてお願いいたします。

「心の灯」

浦田俊夫

私は会社の方で一年早い、つまり去年形式的な成人式をやってもらい。ズーズーしくも今年もまた故郷の成人式に参加させてもらったのですが、両方比較してみると、会社の方は映画と本を一冊もらっただけで、はるかにこちらの方がすばらしく、楽しい思い出とすることができました。個人的な役割が多かったのは、私にとってうらかったですけれども、一生涯私の心に残ることでしょう。

中学卒業当時から別れになっていた友達と再会し、お互に名前を呼び会い、懐しさは積もる一方でした。就寝時に指導員の方から注意される小さなスリルを味わいながらも、思い出や今後の話が夜遅くまで後をたたなく、また神社でお払いによって清めてもらった時は、現実的にはそうでないけれども、足先から頭に向って少しづつ成人となっていくような錯覚さえ感じられ、成人者たる新たな希望が湧いてきた。

このような思い出は、キャンドルファイヤーの如く、私の心の灯となって生涯私を力づけてくれることでしょう。

「言」

対巌楼主人

「利を好むの人は色を好むより多く色を好むの人は酒を好むの人より多く、酒を好むの人は奕（奕＝エキ＝とはカケごと）を好むの人より多く、奕を好むの人は書を好む人より多し」。人間性僻のおもむく所をうまく洞破している。利色酒奕書の順となり、書を好む者は最も少ない。アア歎すべきかな、なといっても仕方がない。

「万人利を好む、利において成功すれば弊糸の（ジョ＝その外）ものはことごとくおのずからにして到ればなり」

ここにいう利とは自利貨利をいうものにして、自利貨利益利（ドンリ）はいやしむべきも、公利国利百世利万世利大道利に到っては、まさに九天極地の理想であろう。

娯しく読まされたのでご紹介する。

箴言

西郷陸軍大将兼参議筆頭の月給は五百円であったが、家賃三円、生活費十五円を差し引いた残りは当時の大蔵次官に当る渋沢栄一氏に返しにゆかれ、大きな握り飯に味噌を塗った弁当を持って、平時はテクテク歩いて内閣通いをされたという。

これは生九勇という精神科の教授の随筆「病跡学の思い出」から抄出したもの。

二、大道理

かくれた画家

肥薩美術展に入選

その人は平国の浜田荘平さんである。去る去年の十一月水俣市公会堂で行われた美術展で、油絵の壺と林檎を出品して佳作として入選した。

初めて油絵を水俣市の松本得三氏・長野勇氏の指導を受けるようになって直後の作品が入選したそうであるから、氏の天分のほどがうかがえる。

氏がめぐまれた画才があることは知る人ぞ知るで、平国で剛とか学会があるたびに、大きなパックを書いて、そのすばらしい出来ばえに人々を驚ろかせたり、近所の人たちの希望に応じて書いてやって喜ばせたりしていた。

氏はこれからも農業の余暇を利用して油絵を続けられるだろうが、氏の天分からして、りっぱな作品が生れるだろうことは間違夢るまい。御精進を祈る。

成人式に振袖を着ずとも不断着姿で久しぶりに友達と寝食を共にすることの方がどれだけ生きた成人式かわからない